

第137号

発行所 拓殖大学学友会
 東京都文京区小日向3丁目4番地14号
 電話東京(947)2261(代)
 電話東京(941)1016(直通)
 郵便振替口座番号東京7-34348
 編集発行人 染谷 誠
 印刷所 株式会社表現社
 東京都板橋区富士見町34-7
 電話(962)2391(代)
 発行日 毎月1回 1日発行
 定価 1部50円

茗荷谷たより

☆ 学友会費は3千円(52年度分)です。9月末までに納入していただきます。ご芳名を本誌2面に掲載し(領収証の替わり)本誌を53年3月号までお送りします。

☆ 広告募集

基準料金

▽1行500円▽4行2千円▽10行5千円▽20行1万円(営業品目のPRにも積極的にご利用をお願いします)

☆協和銀行茗荷谷支店預口座156138



拓殖大学外国語学部長 瓜谷良平

海外事情4月号から

外国語学部の創設にあたって (承前)

従来の外国語学、特に文法は「文」を構成する法則の研究とされたので、「書きことば」の研究、つまり「話しことば」が取扱われるとしてもせいぜい著名な作家の作品の中に現われている、書かれた「話しことば」であつた。生の音声や、録音による記録が取扱われるようになったのはごく最近の特徴であると言えよう。

外国語学の研究者や学生はその国へ行って勉強しないしは研究をする必要がある。専門の学者になるための研究をするにはこれまでに述べたような意味で直接外国へ行って勉強したからといって書けるものではない。たとえ日本人であってもきちんとした文が

書けるためには小学校六年と中学三年の九か年がかかるであろうし、それも文才のある特別な人だけであろう。正しい日本語を書くこととなると大学を卒業した人でも容易なことではない。外国においても同じことが言えるのであって、外国語学部で、二年や四年間学んだだけで外国語で文が書けるはずもない。要するに、辞書参考書を頼って、できるだけ正しい文を作る練習をしなければならぬ。作文の教育では個人個人がなすべくできるように個人指導をしなければならない。

話せるようになるためには、話さなければならぬ。当然すぎるほど当然なことであるが、教室での教育では不可能に近い。なぜなら教室では一人の学生が三分間話したとしても二五名の学生では七五分は必要で、その間に交替時間、先生の説明の時間があれば九〇分授業で各人にはほとんど話をする機会がない。もしもひとりの学生が先生の問いかけに答えることができなくて考えこんでしまつたら一車線道路のようなもので、他の学生全部がそこで停滞してしまつて、練習のチャンスはそこで待たされてしまふ。私の構想では作文と会話については上級生によるチューター制(個人指導)を実施したいと考えている。が、会話では、チューターである上級生自身の会話力が充分でない時には、かえつてマイナスになりやすいので、夏休みなどを利用して外国での会話研修を行なうことを薦めたいと考えている。

私が外国語大学の学生であった頃を思い出して、不思議に思うのは、学生の気質というカカラーが学んでいることばの国民性に似てくるといふことである。中国語の学生はいかに大陸で、のんびりおうようであったし、フランス語の学生は個性的で自由主義、英米語の学生は堅実型、スペイン語は陽気、ロシア語の学生は思想型、……私自身もそれが悪いことであるとは思わなかつた、よい性質は学ばざるべきであると思うが、いわゆるカブレないように、主体性はしっかり保ってほしいと思う。とにかく書物で知る限りでは、その国のいいところばかりしか知ることができない。書物で得た知識と実地の経験とはかなり違うことが多い。長所も短所もすべて知つた上で、その国のために働き、その国の人の友となろうとするところまでの理解を望みたい。

主体性を崩さないということに関連して、外国語学部の学生諸君に特に望みたいことは、日本を知る努力を平行させることである。外国語学部で学生が外国の言語のみならず地理、歴史、文学、芸術、思想、法律、社会、風俗、習慣などを学ぶことは基本的に正しいことで、触れずに通過してはならない。このことは、言語の理解を間接的に助けるのみならず人間を理解する上で重要なことである。しかし現実には外国人に接してみると、彼らは日本人から日本についての同じことを聞き出そうとする。茶の湯、いけば花、歌舞伎、相撲などは必ず質問されることで、その他あらゆるものが日本のこととの比較で話題にのぼる。そのような時に「知りません」というのはたやすいが、日本についてあまりにも知らないのでは、教養の低い人と判断されても仕方がない。ある商社の支店長としてスペインに生活する日本人から聞いた話を紹介しておく。彼の年齢は三五歳で若手のしかりとした人であったが、支店長ともなると取引相手として交渉しなければならぬスペイン人は社長、副社長、または部長クラスの人物であつた。大会社の重要人物は、たとえ取引であつても話題は商売に限定されるのではなく、さきに述べたようなあらゆることに話が及ぶ。相手の教養の深さにびっくりさせられるという。日本におけるような料亭やキャバレーの招待で酒のいきおいで取引をまわせることはなく、家庭に招かれて家族との交際が始まれば、この取引だけでなく永年にわたる信頼関係となつて、それがすべてに優先する。学生時代には教養を深めることは非常に重要なことで、試験さえ通過すれば教養

は忘れ去つて、あとは酒に酔つたような生活に浸るようでは低俗な交際しかできないし、軽蔑されて当然であろうと話してくれた。知識があることは重要なことであるが、更に大切なことは人間性とか人格の問題である。拓殖大学の学生のなかでも、クラブ活動をする学生諸君は人間を上下の関係で見ることが習慣づけられないように心してほしい。

上に対するいい態度は好感を持たれる場合もあるが、下に対する尊大さは自分の不利にはねかえることを忘れてはならない。下級生を下僕か奴隷のように取扱つたり、そのようなことばで話す習慣がついてしまつと、自分が尊大ぶつていふという意識がなくなつてしまふ。外国に出かけて、または外国人に接して、たとえ相手がサービス業者であろうとも、会社の若輩であろうとも決して横柄な態度をとつてはならない。卑屈になる必要はないが、自分以外の者も人間として尊重することから出発しなければならぬ。他の人間を軽蔑したり、威張つたりすれば他からは軽蔑が返つてくるだけで、他の者を尊重することによって自分が尊敬されることは洋の東西を問わず真理である。

拓殖大学の教育理想は国際的な教養をつけさせることであるといわれている。具体的には外国語の知識、それによって得られる外国の文化、芸術、社会に関する知識を身につけ、洗練された人格であり、協調性があつて平和主義に徹することであらう。

外国語学部の教育が目指すもの

外国語学部は外国語学を大きな柱とするのではなく、その進路を考慮することも教育としては重要なことで、なおさらに放置することは許されない。社会は外国語学部の卒業生には「役に立つ」外国語能力、つまり読み、書き、話せる実用語学の熟練者であることが期待されている。これは基本条件であつて、この能力には個人差があつても、欠くことは許されない。理屈の上では許されないことではあるが、さきにも述べたように多人数のクラスでは会話教育とか作文教育を行なうことは困難であるという事情のために外国での研修をすすめたのである。外国語学が主要な柱であることはすべての学生に共通なことで、もしも習得した外国語を他の人に教える必要が生じた場合、系統的な学問がなければ質問に答えることもできない。近頃はかなり長期計画で外国の大学に留学したり、語学の専門家になるために大学院に進学を希望する人が多くなつ

たすことができるであらう。

外国語学部の学生に望みたいこと

昔と現在の物価上昇率を比較して、最もコストが下がつたのは遠距離輸送手段だと言われている。航空機の大規模化と高速化がこのことを可能にした。ヨーロッパ往復は二〇万をこそこで行けるので、アジア地域内での往復と大差がなくなつてしまつた。近年ヨーロッパを旅行している日本人がどれほど多いかというところは、ヨーロッパへ行つたことのある人ならだれでも指摘することである。若い独身女性らしいグループ、大学生、高校生、中学生のグループだけではなく、小学生の団体にもパリでもロンドンでもお目にかかるような時代になった。大学生なら、冬と春と夏の長い休暇を二年働けばヨーロッパ旅行をするぐらいの金を作り出せる。会話力は教室授業ではどうしても不十分であるから、現地での研修は、教員も学生もできることなら義務づけたいと思つた。現地で下宿をし、友人を作つて文通をし、訂正してもらえば個人レッスン数時間では得ることのできないものを充たすことができるであらう。

常に重要なことで、試験さえ通過すれば教養

私の戦記 (27)

丸亀市 厚仁病院長 米本 仁

ふるさと訛間の空に散った 兄・米本弥 (丸亀中) に代わって (その2)



佐世保海兵団に入団し、第14期海軍予備学生として土浦航空隊に、さらに19年5月26日郷土の民間航空隊に配属されました。当日の日記には「懐しき故里の海を渡る」として...

五時五十分訛間到着、隊の定期にて航空隊まで行く。予科、学志のときも二回Arreitにきたけれども工事は未だ完成してない。各々の部屋の美しき事は土浦の生活とは雲泥の差。ふるさとの密柑の香り高き空気を胸一杯に吸ひつつ眠につく。兄は赤トンボから93式水偵、さらに94式水偵の操縦員として故郷の空を勇壮に飛び回っていました。上陸(海軍での外出)に際しては大勢の同僚と我が家に押しかけ、まるで海軍の臨時寮と化する感もありません。物足りないときだけに母の着物一枚、一枚が米に、酒になり、間を縫っては潮干狩りに行く貝の佃煮として酒肴の用意をし、家族はいつもながらの雑炊を食べながら、こうした接待をするのが当然のように思っていました。嬉んでいた当時の母を思い出します。ちょうど、こうした時期は、私の丸亀中3年生のときで、学徒動員として8月以降市内港町にある亀陽航空株式会社という軍需工場の実習場での訓練期間中でした。兄の方は、だんだんと高等飛行練習になっていて、遠からず訛間から実戦部隊に配属されるなど、少年の私の心にもわかりました。毎日のごさか、整備ミスか、今の時代のように遺族が追及するわけでもなく、また、追及できる時代でもなかったのです。原因は不明のままです。

新刊

火の海の墓標

あるアジア主義者の流転と帰結 後藤乾一著(時事通信社、980円) 1949年(昭和24年)1月、インドネシアは対オランダ独立戦争でゲリラ戦を展開していた。アブドル・ラフマンこと市来竜夫が戦死したのは、この時期である。市来は九州熊本の人。昭和初期、南洋へ渡り、日本人社会を通して祖国日本の伸張を見る。アジアの

被支配民族は、日本の近代化と南進に大きな期待を寄せ、在留邦人もまた呼応する。ジャワに日本軍政が布告され、3年半のちの敗戦に至る過程で、市来の心は、日本人を離れ、インドネシア人になりきってしまう。日本軍に失望し、インドネシア義勇軍に身を投じた市来の戦没だが... 大東亜戦争開戦前、市来は帰国して三宅坂の陸軍省参謀本部に「第二部第六課」には、その他、拓殖大学卒業後、陸軍中野学校で諜略活動のための特殊教育を受け、日本軍政期

KAMUS BARU INDONESIA-JEPANG

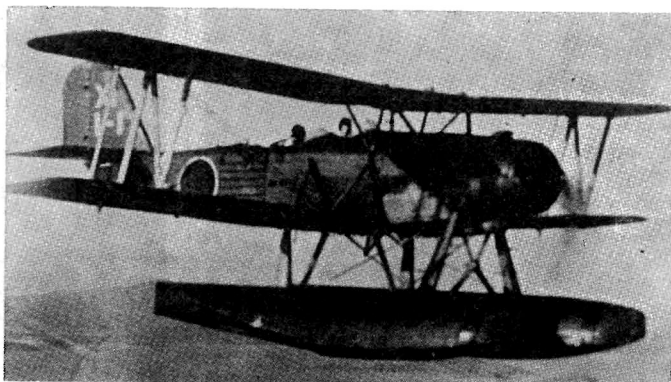
現代インドネシア語辞典

末永晃 関伊統 トルセノ編

この辞書の4氏は、いずれも生きたインドネシア語を把握している研究者であるから、辞書としては最新型といっている。活字の大きさも見やすいし、親切である。各国語シリーズの一環。集録語数、約1万6千語。クロー

八王子校舎に寄贈 一、書一幅 稲垣 明(伯州)(大18回)

10月22日午前10時5分ごろ、秋の陽ざしを浴びながら、10分間の実習休憩時間をいつものように、友人たちと、その飛行訓練を見ているとき、突然、異変が起こりました。ある1機が200m上空から急降下に入った。角に海面上に墜落するとともに、その現場は私たちが見ているところより約10kmの距離がありました。大きな飛沫を立て、次いで黒い点々が2、3落下したあと、落下傘がひとつ、ふたつ、フアーとゆっくり下りてきました。一瞬の出来事でした。



94式2号水上偵察機 日本海軍機集(酣燈社)兵器図鑑(池田書店)

し、当時の隊員は規則で落下傘は持って乗るもの、横に置いて装着しない、という飛行機乗り気質があったようですが、この事故が

この訛間空から、後日、特攻隊員として出撃した同僚の多いことからして、いずれは短い命であった兄かも知れませんが「軍医ソロモン戦線行脚」(注1前号で紹介)の終わりに書いていますように、長兄の19年3月の戦死を知り、その公報が人手でできていけば、危険な航空隊を避け、より安全度の高い職種を選んだかも知れませんが、これが運命というものでしょうか。故人の冥福を祈るのみです。

あつてからは至上命令で装着したそうです。その夜、家族、同僚たちとお通夜を行ない、翌日午前10時、訛間海軍航空隊開隊100日の最初にして最後の海軍葬が、いとも厳肅に施された。 金森正嘉さん安らかに 39期・金森正嘉さん(若手具出身、三菱愛宕)のお通夜が6月24日、東京・信濃町駅前千日谷会堂で行なわれたとき、同期の深谷勝夫、野沢武、菅沼義雄の3氏が駆けつけて喪主のトシエさん(旧姓朝来野、帝国女専)

小説平岡養一・木琴人生

豊田 穂著(福昌堂刊、640円)

直木賞作家の著者は海軍兵学校出身。中日新聞文化部記者の経歴がある。平岡養一氏とのつながりは、ロサンゼルス在留の拓大OB、48期西山英峻氏(東京都出身)を通じてである。西山氏はIAKF(国際アマチュア空手連盟)理事長で、妻洋子さんは、木琴王平岡養一の長女である。 この本の出版記念会(6月27日・ホテルニューオータニ)には、以上の方々に、中山正敏(33期)・城田正孝(35期)・高木正朝(専5)・宮沢正幸(51期)・庄司寛、阪本勝、中村文康(以上52期)が参加した。本の注文は近くの書店で。または千原渋谷区千駄ヶ谷一ノ五ノ一矢後ビル401号福昌堂(03)401-7905

都連に北、板橋支部

城北支部総会

6月17日夜、赤羽会館に本部の大林茂副会



活躍する支部・同期会

玉置和郎氏全国区に

滝沢勇氏都議選に当選

第11回参院通常選挙の結果、全国区に出馬した玉置和郎氏(大16)は上位で、また、都議選(八王子)に出馬した、滝沢勇氏(学51)はトップで当選。おめでとうございます。

淡路島の同窓会

本学第4代学長永田秀次郎青嵐居士は名東京市長として、また、学長在任中に拓務大臣、鉄道大臣として政官界に重きをなしたことは余りにも有名であるが、本学80周年記念を機会に青嵐学長の郷里・淡路島の同窓が兵庫県支部淡路地区支部の結果親睦を図った。差し当り、柴田大作(学41)小林修一郎(学35)後藤秀夫(専15)の3氏が世話役となり、母校の啓蒙発展に寄与したいとのことで、幸勝常任幹事が帰省に際して、左の寄せ書きを託して来た。(柴田氏は淡路島で堅実と評判高

埼玉県支部総会

5月15日浦和市「埼玉会館」で司会本橋喬氏。石関仁氏の開会の辞、校歌斉唱、井下田支部長、大林学友会副会長あいさつ。幹事長馬場弘氏から①総会開催②恩師学友慶弔③学友選挙後援④役員八王子校舎見学⑤80周年記念事業募金⑥学友会費納入⑦学友会名簿購入の諸件について経過報告。鈴木辰男氏から会計報告のあと、新役員の出選を行なったが、もう1年現役員の留任となった。このあと新井太市顧問あいさつ、折田源一郎氏閉会の辞により総会終了。懇談会では①総会は毎年盛大に②総会通知の周知徹底③学友会費納入方法④支部会費⑤80周年記念事業募金の協力⑥役員活発な支部活動を要望等熱心な討議が時間いっぱいに行われ、17時解散。「出席」大林副会長(37)新井太市(30)直塚正気(37)井下田慶一郎(39)相原正身(40)馬場弘(45)石塚喜一郎(47)斎藤重明(48)横堀誠一(51・大6)古賀実(51)名取栄男(54)佐藤信男(56)藤井賢道(57)三島清人(57)石嶺

拓旅会 発足お知らせ

6月9日、新宿・ビッグチャイナで。旅行代理業、航空会社、関連ホテル業界従事者のための集まり。入金金千円、3か月に1度の割合で開催の予定。「出席」若松立行(67期)ワカインターナショナル社長(古木謙三)同、グローバルユースビューロー東京支社長(池谷正男)68期、海外エンタープライズ代表取締役(小野芳明)同、エアインディヤ営業部(山田康雄)69期、ミクロネシア営業部(北島雅己)74期、大韓航空旅客課(清野武)代表発起人、67期、パンアメリカン航空旅客課(※連絡先03(433)2891番・池谷。

熊本県支部総会

6月11日、熊本市鶴屋百貨店ホールで。中原裕支部長(学37)から、母校の近況と創立80周年記念事業募金集項の説明があり、協力を要請。合せて、52年度学友会費支部一括納入に全会員の協力を要望。記念撮影のあと、同支部長鶴屋百貨店社長就任記念祝賀会にうつる(注)前副社長。来賓、福岡県支部長小野栄次氏(学40)及び当支部幹事の祝辞があり、豊田総長はじめ学友多数の祝電を披露。中原社長謝辞のあと、祝宴に入る。福岡県支部から支部長ほか4人の出席があり、総員49人。盛会で有意義であった。

紅会 総会

6月18日、箱根大平台「なにわ荘」で。紅会応援団OB、会員30人参加者34人、議題に入り学生主事の河田昌一郎君(67期)が最近の学園近況を報告したが、なかでも国士館大との競争事件で議論が沸騰、OBとしての自覚が要求され、また学校当局の指導力欠如が厳しく批判された。また学友会常任幹事の浅野貴義君(64期)より80周年記念事業の募金運動について学友会各支部や期別幹事会の活動状況が報告され、紅会としては本事業の推進に全面的協力を申合せた。(大戸政栄)

第4回61期会

6月11日18時から新宿区百人町「東京海洋会館」で。毎年一回6月に開いているが、幹事から大学の近況報告をはじめ、学生時代の話や、近況について交換し合い、拓大歌集を手に、歌も多く出た。三重県、愛知県からも参加者があり盛会。大学関係者の出席を依頼したが、都合悪く出席されなかったことは残念であった。「出席」波多、菊地、寺尾、川口、辻、藤田、福田、二口、酒巻、衛藤、片根、古田、花摘、下田、新田、三浦、村上、松尾、千住、宮沢、平田、鹿能、佐々木、大和田、古屋、平林、芳賀、吉岡、笠原、酒井、別府、岸川、舩、原田、野島、橋本。以上36人。



伝光(58・大12) 福田勝幸(65)伊藤時男(67)加藤毅(68)古市昇(68)小山博久(70)吉岡仁(73)折田源一郎(専15)梅沢長三(専16)本橋喬(専20)鈴木辰男(専22)鈴木和彦(短3)石原和平(短18)石関仁(拓専1)熊倉喜八郎(拓専3)以下29人。



昭和52年度拓大大学学友会熊本県支部総会並 中原裕鶴屋百貨店社長就任記念祝賀会



藤井氏に勲三等

富山県支部が祝賀会

28期、藤井勇見北日本新聞社長(旧姓、嵩尾、富山市)は、昭和52年度春の生存者叙勲で5月11日、勲三等瑞宝章を受章されるといふ光栄に輝かれました。時事新報を振り出しに富山日報、北日本新聞社と、言論報道人として今日まで40数年間、終始一貫ペンをもって「社会の木たく」として活躍してこられた功労に対して贈られたもの。県支部では、このめでたい受章に、心からお祝いしようといふため、同月28日夕、富山市ひろせ料理センター(58期、広瀬宏文氏経営)に32人が集まりました。大蔵勇支部長(45期)が開会あいさつして記念品を贈り、改井秀雄富山市長(40期)と

新宿・渋谷・中野

に都連支部誕生

5月27日夜、道玄坂「つか田」で都城西支部総会を開き、都連方針に基く1区1支部に再編成することを決めた。新役員は別項。この結果、城西支部は発展的解消を遂げた。今後はキメ細かな活動を期待される。この日、足立芳郎氏(専19)が司会、植木敦氏(学60)開会の辞、母校物故者への黙禱、宇野泰雄氏(学45)の経過報告と進んだ。本部から出席の為我井副会長は、80周年募金への協力、新会員名簿残数消化、学友会費一括納入と支部助成金などを説明した。募金問題に関連して

北九州支部定期総会

出席者60余人。本部の為我井氏が八王子募金の状況報告。ほかに福岡、山口各支部からも来賓あり。議長に浦田希素太氏(学40)を選出し、新支部長に村上茂俊氏(学44)が推挙された。瀬藤義昭氏(学40)の音頭で乾杯となり、美酒、放吟に時をすごした。

逝去

沢田忠志氏 6月17日 高血圧のため、(専15期・青森県上北郡天間林字十字路)篠勇氏 6月29日 心不全のため、(短25期・練馬区中村南二十五) つつしんで哀悼の意を表します。



拓大大学学友会北九州支部総会